

2025年4月21日

ヤクルト容器の継続的な自主回収を開始 ～東京都国立市、社会福祉法人国立市社会福祉協議会および社会福祉法人 くにたち子どもの夢・未来事業団との協定に基づく取り組み～

株式会社ヤクルト本社（社長 成田 裕）は、東京都国立市において、「ポリスチレン製ヤクルト容器の継続的な自主回収」を2025年4月1日から開始しました。

今回の自主回収は、先行して実施した取り組みである、株式会社アールプラスジャパン（本社：東京都港区、社長 大竹 篤、以下、アールプラスジャパン）との活動の一環として2024年3月から11月まで実施した「プラスチック資源の自主回収テスト」の結果が良好であったことを受けて、開始に至りました。

今回は、2025年3月1日に当社と国立市、社会福祉法人国立市社会福祉協議会および社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団とが締結した協定に基づき、持続可能な循環型社会の実現に資するとともに、地域における環境保全の意欲増進、環境教育の推進、地域コミュニティの活性化および地域福祉の向上を図ることを目的としています。

記

1. 期 間：2025年4月1日～2026年3月31日（期間中の結果により継続を検討）
2. 内 容：以下の公共施設2か所のそれぞれ開館時間中に利用可能な専用回収ボックスを設置し、ヤクルト容器を回収します。加えて、アンケート調査や各種広報施策の実施を通じて、回収する容器の品質の向上と量の増加を図ります。
3. 場 所：公共施設2か所
 - ・くにたち福祉会館（国立市富士見台2丁目38番地）
 - ・くにたち未来共創拠点矢川プラス（国立市富士見台4丁目17番地の65、66）

備 考：今回の自主回収で回収する容器は、PSジャパン株式会社（社長 頭谷一平）のモノマー化ケミカルリサイクル技術*を用いて再びポリスチレンにリサイクルするとともに、当社による循環的取組に活用する予定です。

＊使用済みポリスチレンを高温下の熱分解と蒸留精製によりポリスチレンの原料であるモノマーに戻し、再びポリスチレンを製造する技術。

化学的に再生するため、リサイクルを繰り返すことによる劣化がなく何回でも再生可能で、色材・臭気等はずらず衛生面でも従来の石油由来品と変わりません。再生産されたポリスチレンは食品容器・包装用途にも使用が可能です。

以 上

[参考]

プラスチック資源の自主回収テストの結果レポート

アールプラスジャパンが、2024年3月から11月までの期間に実施した、プラスチック資源の自主回収テストの結果レポートを公開しています。

https://rplus.japan.co.jp/news/detail_2025_02_21/